

「小田原市立病院経営改革プラン」における「具体的な取組」のKPI進捗状況

区分	項目	具体的な取組	KPI	令和元年度の取組結果	評価	
収支状況の改善に向けた取組	収益関連の取組	患者数増加施策	紹介率、逆紹介率ともに令和2年度までに70%を達成	<p>・令和元年度実績(紹介率):73.0% (引き続き、積極的な紹介患者の受入に努めた。前年度よりも2.5ポイント増加した。)</p> <p>・令和元年度実績(逆紹介率):84.4% (病院長、病院長補佐から各診療科部長に対し、逆紹介を推進するよう依頼を行った。)</p>	○	
			年間救急搬送人数を令和2年度までに5,993件を達成	令和元年度実績:5,198人 (救急搬送人数は令和元年度の目標値5,902件に届かなかったが、救急搬送の内訳をみると、重症患者の受入割合は前年度と比べ増加しており、当院が担うべき三次救急への受入対応が増加できていると考えている。)	▲+	
		単価適正化施策	査定率を令和2年度までに0.2%へ削減	令和元年度実績:0.2% (引き続き、医療保険委員会で査定内容を周知するとともに、保険請求前のシステム点検や会計の誤入力について医療事務委託業者との連携を図った。今後は各診療科と個別にディスカッションをする等新たな取組も加え改善を進める。)	○	
			毎年度において、認定看護師等による加算取得の実績を1件以上達成	令和元年度実績:8件 (新たに、6件(「ハイケアユニット入院医療管理料Ⅰ」、「麻酔管理料Ⅱ」、「在宅腫瘍治療電場療法指導管理料」、「遺伝カウンセリング加算」、「神経学的検査」、「内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術」)を取得するとともに、2件(「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(先進医療)」、「一般病棟入院基本料」)の変更を行った。)	○	
		未収金抑制施策	毎年度において、前年度患者負担未収金残高を基準日(8月31日時点)と比較し10%削減	令和元年度実績:約28.5%の削減 (医師の協力や医療事務委託業者との連携により当日会計の推進等に取り組んだ。)	○	
	費用関連の取組	材料費の削減策	<p>・安全性を考慮したうえでの後発医薬品の使用促進</p> <p>・同種・同効品の絞り込みや医薬品の価格交渉を通じた単価引き下げ</p>	<p>・後発医薬品の使用割合について、令和元年度までに80%を達成</p> <p>・毎年度において、価格交渉により各年度当初の契約単価からの値引き額合計を1,000万円以上削減</p>	<p>・令和元年度実績(後発医薬品):89.9% (薬事委員会を中心に、後発医薬品に変更可能な先発医薬品の積極的な切り替えに努めた。引き続き、「後発医薬品使用体制加算Ⅰ」の基準(85%以上)を満たすとともに、DPC制度の中で包括されてしまう入院において、後発医薬品の割合をさらに高めていくよう取り組んでいく。)</p> <p>・令和元年度実績(値引き合計):約1,500万円の削減 (病院幹部医師や薬剤科部長が参加し、全国自治体病院協議会の作成するベンチマークを踏まえ、年度中に2回の価格交渉を実施した。)</p>	○
			毎年度において、価格交渉により各年度当初の契約単価からの値引き額合計を1,000万円以上削減	令和元年度実績:約5,400万円の削減 (診療材料委員会において検討した採用品をSPD業務受託者に定期的な価格交渉を実施させた。)	○	
		経費の削減策	定期的な支出内容の見直し	毎年度において、支出内容の見直し及び削減実績を1件以上実施	令和元年度実績:1件(約120万円の削減) (医療職用の職員住宅のうち、賃貸借契約分の見直しを行った。)	○
			委託内容、範囲及び契約方法の見直し	委託費金額の総額を令和2年度までに平成27年度対比で5,000万円削減	令和元年度実績:数値化不可 (平成29年度に業務委託契約を締結した複数年契約の業務委託は、令和2年度に更新時期を迎えるため、これに向けて仕様書の見直しを行い、次期契約に向けて準備を進めた。)	▲

区分	項目	具体的な取組	KPI	令和元年度の取組結果	評価
収支状況の改善に向けた取組	その他の取組	・ 職員に対する経営情報の公開と共有化の推進	毎年度において、病院職員向けの経営情報の共有実績を1回以上達成	<b>令和元年度実績：2回</b> (経営戦略委員会、各診療科別ディスカッションにおいて、経営状況の報告を行った。)	○
		・ 各診療科・部署における年度目標の設定と評価	毎年度において、各診療科・部署における年度目標及び評価実績を1回以上達成	<b>令和元年度実績：1回</b> (各診療科別ディスカッションにおいて、業務実績の振り返り、今後の展望等について議論を行った。)	○
人材の確保・育成に向けた取組	人材の確保に向けた取組	・ 医師、看護師、医療技術職員の勤務環境の整備	職員勤務環境実態調査(隔年)を実施するとともに、毎年度において改善実績を1件以上達成	<b>令和元年度実績：調査を1回実施、改善実績0件</b> (職員の福利厚生や処遇等に対する職員満足度調査を実施した。令和元年度中の改善はできなかったが、回答内容を踏まえ改善に努めていく。)	▲
		・ 看護師等奨学金制度の充実	毎年度において、奨学生を60人以上確保し、奨学生の当院就職率100%を達成	<b>令和元年度実績(奨学生人数)：34人</b> <b>令和元年度実績(就職率)：95.0%</b> (令和元年度中に2回の奨学生採用試験を実施し、6名を奨学生として貸付を開始した。奨学金制度の見直しを行った結果、近年の採用試験受験者は、奨学生以外も増えてきていることから、奨学生の採用は縮小していく方向とした。)	×
	人材の育成に向けた取組	・ 医師、看護師、医療技術職員及び事務職員の専門能力の向上に資する職場外における研修の充実	毎年度において、各科における研修計画書を作成し、この計画に基づく研修の実施率100%を達成	<b>令和元年度実績：数値化不可</b> (研修のあり方について、学会参加費、研修会・講習会参加費及び旅費の配分や、実習受け入れ実績に対するインセンティブを付与することなどを検討した。引き続き検討を進め、令和3年度から経営形態を地方公営企業法の全部適用へ移行する際に反映させていく。)	×
		・ 専門的な知識を有するプロパーの事務職員の採用検討	令和2年度までにプロパー事務職員の採用実績1人以上を達成	<b>令和元年度実績：2人</b> 平成30年度に診療情報管理士及び医療社会福祉士の採用試験を実施し、平成31年4月から各1名を採用した。また、医療社会福祉士の採用試験を実施し、令和2年4月から1名の採用を内定した。	○
建物設備の更新に向けた取組	建物設備に関する取組	・ 維持修繕計画に基づく既存建物の整備	毎年度において、維持修繕計画に基づく整備の実施率100%を達成	<b>令和元年度実績：維持修繕計画外の維持修繕対応を行った。</b> (令和元年度は、市立病院の機能充実化に向けた救命救急センター増床工事及びハイケアユニット改修工事を行った。建物設備の老朽化が進んでおり、不具合の発生した個所の修繕対応がメインとなっており、維持修繕計画の見直しが必要となっている。引き続き、新病院建設事業の進捗を踏まえ、現施設の維持修繕に努めていく。)	▲
		・ 医療機器の更新計画の策定	毎年度において、医療機器更新計画に基づく整備の実施率100%を達成	<b>令和元年度実績：100%</b> (令和元年度は、更新計画に基づき「一般X線撮影装置」や「手術顕微鏡」等を購入した。引き続き、新病院建設事業の進捗を踏まえ、適宜医療機器更新計画の見直しを行う。)	○
		・ 病院の建替計画の策定	毎年度において、小田原市総合計画実施計画に基づく取組の実施率100%を達成	<b>令和元年度実績：100%</b> (基本計画策定作業を開始し、新病院の機能の検討のほか、建設地の検討や院内各部署に対するヒアリング等を実施した。)	○